

岡山県感染症週報 2018年 第40週 (10月1日～10月7日)

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症注意報』発令中です。

◆2018年 第40週 (10/1～10/7) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第38週	5類感染症	結核 1名 (90代 女)
		梅毒 1名 (高校生 男)
第39週	2類感染症	結核 2名 (50代 女 1名、90代 男 1名)
	4類感染症	レジオネラ症 1名 (50代 男)
	5類感染症	急性弛緩性麻痺 1名 (幼児 男)
		後天性免疫不全症候群 1名 (60代 男)
第40週	2類感染症	結核 3名 (70代 男 2名、80代 女 1名)
	3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症 2名 (O157:中学生 男 1名、40代 男 1名)
	4類感染症	重症熱性血小板減少症候群 1名 (20代 男)
		レジオネラ症 2名 (60代 男 1名、70代 男 1名)
	5類感染症	ジアルジア症 1名 (20代 男)
		百日咳 2名 (小学生 男 2名)
		風しん 1名 (50代 女)

1. [風しん](#)は、第40週に1名の報告があり、2018年第40週までの累計報告数は10名となりました。風しんは、妊婦がり患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、注意が必要です。また、成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。全国の発生状況など詳しくは、[今週の注目感染症①](#)をご覧ください。
2. [腸管出血性大腸菌感染症](#)は、2018年第40週までの累計報告数は56名です。今後も発生がつづく可能性があることから、岡山県は「[腸管出血性大腸菌感染症注意報](#)」を県下全域に発令し、注意喚起を図っています。詳しくは、岡山県感染症情報センターホームページ『[腸管出血性大腸菌感染症注意報 発令中!](#)』をご覧ください。
3. [重症熱性血小板減少症候群 \(SFTS\)](#) は、第40週に1名の報告がありました。本患者は体調不良の動物に濃厚接触していたことが確認されています。SFTSの詳細については、[今週の注目感染症②](#)をご覧ください。
4. [梅毒](#)は、第40週までで132名の報告がありました。梅毒患者の報告数が急増した昨年と同時期 (134名) と同程度の多くの患者が報告されています。中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代および20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。梅毒の詳細は、[コラム](#)をご覧ください。
5. [百日咳](#)は、第40週までで136名の報告がありました。年代別では、小学生 (57名)、6歳以下の乳幼児 (28名)、中学生 (17名) が多くなっています。地域別では、備中地域 (43名)、岡山市 (41名)、倉敷市 (35名) の順に報告数が多くなっています。予防法は、予防接種とともに、感染者との接触を避けること、流行時のうがいや手洗い、手指の消毒などです。また、感染時は、軽症でも菌の排出があるため『[咳エチケット](#)』を心がけ、感染拡大防止に努めましょう。

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ		★	RSウイルス感染症		★★
咽頭結膜熱		★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		★★
感染性胃腸炎		★★★★	水痘		★
手足口病		★★	伝染性紅斑		★
突発性発疹		★	ヘルパンギーナ		★★
流行性耳下腺炎		★	急性出血性結膜炎		
流行性角結膜炎		★	細菌性髄膜炎		★
無菌性髄膜炎			マイコプラズマ肺炎		★
クラミジア肺炎			感染性胃腸炎(ロタウイルス)		

【記号の説明】 前週からの推移：
：大幅な増加
：増加
：ほぼ増減なし
：減少
：大幅な減少
 大幅：前週比100%以上の増減
 増加・減少：前週比10～100%未満の増減

発生状況：今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。（発生数が多いことを示すものではありません。）
 空白：発生なし ★：わずか ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い

今週の注目感染症①

★風しん

●風しんとは

風しんは、発熱、発しん、リンパ節腫脹を特徴とするウイルスによる急性の発しん性感染症です。感染経路は飛沫感染で、ヒトからヒトに伝播します。特に妊婦が罹患すると、出生児に先天性風しん症候群を発症することがあり、社会的に注目される疾患です。

●症状

感染から14～21日後に発熱、発しん、リンパ節腫脹が出現します（発熱は風しん患者の約半数）。症状は不顕性感染（15～30%程度）から、重篤な合併症併発まで幅広く、特に成人で発症した場合、高熱や発しんが長く続いたり関節痛を認めるなど、小児より重症化することがあります。

●発生状況

風しん患者報告数は、首都圏を中心に急増していましたが、現在では全国に感染が拡大しつつあります（第39週まで：952名、第40週（速報値）：1,103名。直近3年間では年間93～163名）。中国地方では、第40週まで（速報値）で広島県：16名、岡山県：10名、山口県：4名などが報告されています。

また、この度報告数が増加した風しん患者は、男性が女性の5倍程度と多くを占めており、中でも特に抗体価が低いとされる、30代～40代の男性が中心となっています（男性患者全体の約6割）。

●先天性風しん症候群とは

妊娠初期に風しんに罹患すると、風しんウイルスが胎児に感染し、出生児に先天性風しん症候群と総称される障がいを引き起こすことがあります。先天性心疾患、難聴、白内障が3大症状ですが、それ以外にも、網膜症、肝脾腫、血小板減少、糖尿病、発育遅延、知的障がい、小眼球など多岐にわたる症状を呈することがあります。

●風しんはワクチンで予防できます！

予防接種が唯一の有効な予防手段です。

予防接種、抗体検査についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「風しんの予防について」

今週の注目感染症②

★重症熱性血小板減少症候群（SFTS）

●SFTS とは

SFTS は、2011 年に中国で初めて特定された、新しいウイルス（SFTS ウイルス：ブニヤウイルス科フレボウイルス属）によって引き起こされる感染症です。

病原体を保有するマダニ（フタトゲチマダニ等）に咬まれることで感染します。マダニからの感染が一般的とされていますが、今週の報告のとおり、SFTS を発症した動物からも感染するおそれがあります。

●症状

感染から 6 日～2 週間後に発熱、倦怠感、食欲低下、消化器症状などが現れ、血小板や白血球が減少し、重症の場合は、肝腎障害や多臓器不全を来して死に至ることもあります。現時点で有効なワクチン、治療法はありません。

●発生状況

全国では、2013 年から 2018 年 9 月 26 日までに 381 名の患者が報告されています。岡山県では 2013 年～2017 年に 5 名の報告がありました。また、2018 年は第 40 週までで 2 名の報告があり、合計 7 名となりました。

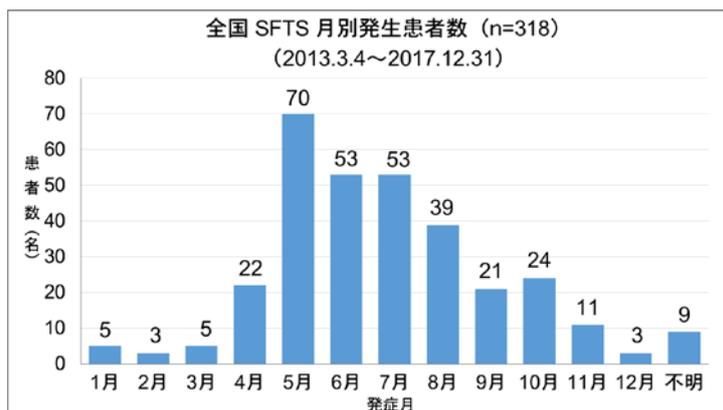
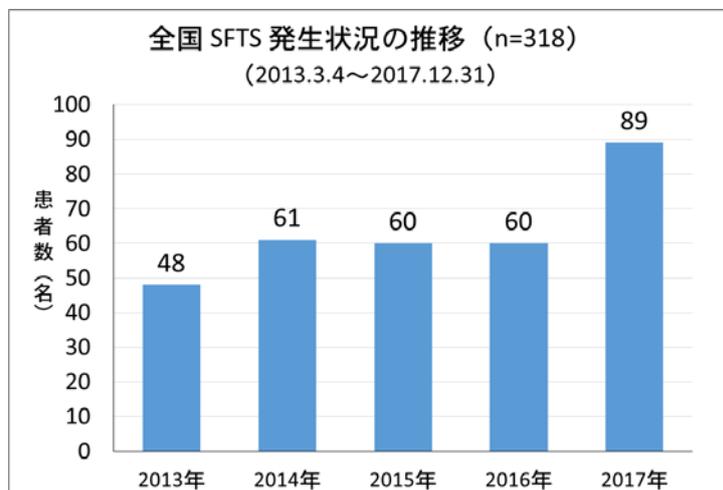
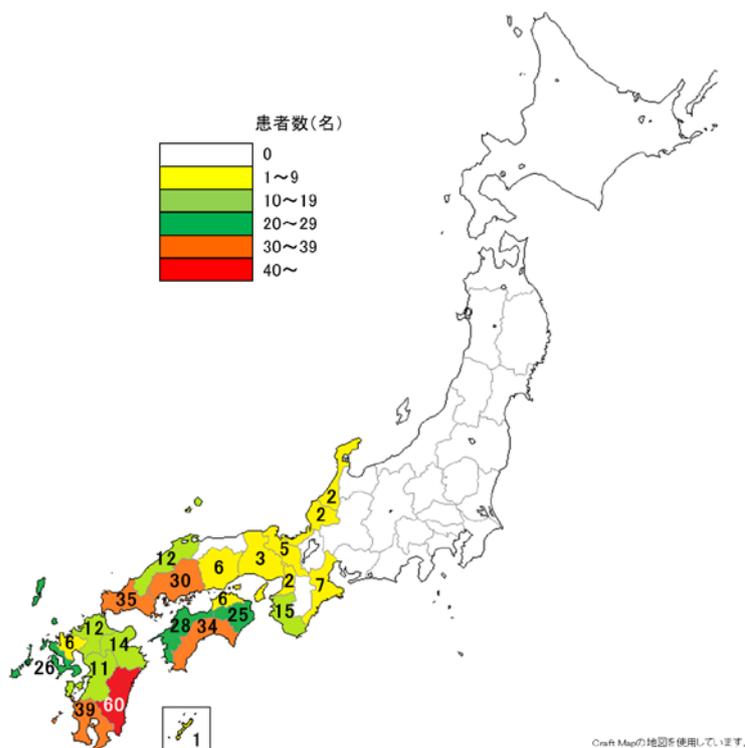
●予防方法

マダニに咬まれないようにするとともに、体調不良の動物（ネコ、イヌなど）との接触は避け、動物に触った後は必ず手洗いをするなど感染予防に努めましょう。

ダニに対する予防についてはコラムをご覧ください。⇒コラム「ダニが媒介する感染症に注意しましょう！」

<SFTS の全国および岡山県の発生状況について>

全国では、例年 60 名前後の報告がありますが、昨年（2017 年）は、89 名と患者の増加がみられました。2018 年は 40 週まで（速報値）で 67 名の報告がありました。時期的には、4 月から患者数が増え始め、5 月でピークとなり、その後患者数は減っていく傾向にあります。岡山県でも、2013 年から 2018 年第 40 週までの状況をみると、5 月に 2 名、7 月に 3 名、8 月に 1 名、10 月に 1 名の患者が発生しています。



* 不明：届出対象となる日時（2013年3月4日）以前に発症した8名、および発症日の記載のない1名。

※全国の発生動向についてはこちら⇒ [感染症発生動向調査で届出られた SFTS 症例の概要 \(国立感染症研究所\)](#)

ダニが媒介する感染症に注意しましょう！

野外で活動する場合、以下のことに気をつけましょう！

野外にいる吸血性のダニとして、マダニやツツガムシなどが知られています。

これらのダニの中には、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)や日本紅斑熱、つつが虫病などを引き起こす病原体を保有しているものもいます。

春から秋(3~11月)にかけて、ダニの活動が活発になります。野外で活動する際は、ダニに咬まれないための予防対策をしましょう。



吸血前の
フタトゲチマダニ♀



吸血後

画像:岡山県環境保健センター

【予防のポイント】

- ◎草むらや藪などダニが多く生息する場所に入る時は、腕、足、首など肌の露出を少なくしましょう。
- ◎服の上や肌の露出部分に、虫除け剤(ディートやイカリジンを含むもの)を噴霧しましょう。(虫除け剤の子供への使用は、添付されている使用上の注意をよく読んでください。)
- ◎地面に直接寝転んだり、腰を下ろしたり、服を置いたりしないようにしましょう。
- ◎帰宅後は、上着や作業着を家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ◎野外活動後は、すぐに入浴し、頭や体をよく洗って、新しい服に着替えましょう。入浴やシャワーの時には、ダニが肌についていないかチェックしてください。
- ◎脱いだ衣類は、すぐに洗濯するか、ナイロン袋に入れて口を縛っておきましょう。
- ◎ペットにもダニがつかないように、ダニ除け剤などで予防しましょう。

【マダニがついていたとき】 ~マダニに咬まれても、痛みやかゆみは、ほとんど感じません~

- ◎容易に取り除くことができる場合(2、3日以内)は、すぐに取り除いてください。その後、2週間程度は、体調の変化に注意してください。
なお、取り除いたマダニは、プラスチック容器等に保存しておいてください。
- ◎容易に取り除くことができない場合(数日以降)は、無理に取り除こうとせず、皮膚科等の医療機関で適切な処置をしてもらってください。無理に取り除くと、口器が皮膚に残って、化膿するなど治癒が遅れる場合があります。

【症状がでたとき】

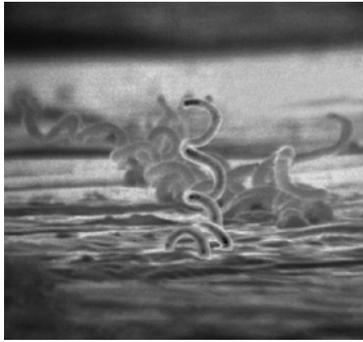
- ◎野外活動の後、数日から2週間程度のうちに発熱・発しん等の症状が認められた場合、速やかに医療機関を受診してください。その際、野山や草むらなどに立ち入る機会があったことを伝えてください。また、取り除いたマダニを保存している場合は、医療機関を受診する際に持参してください。

★★ くわしくは、こちらをご覧ください ★★

- ⇒ [重症熱性血小板減少症候群\(SFTS\)に関する Q&A \(厚生労働省\)](#)
- ⇒ [日本紅斑熱とは \(国立感染症研究所\)](#)
- ⇒ [マダニ対策、今できること \(国立感染症研究所\)](#)



ヤマトマダニ
画像:国立感染症研究所



梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真：
粘膜内への侵入過程（米国 CDC より）

依然として増えている・・・ 梅毒（性感染症）に 気をつけましょう！

●岡山県で梅毒の患者が急増しています

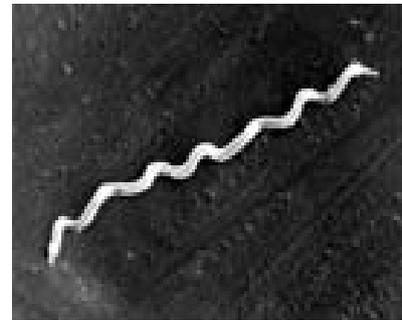
昨年、岡山県では梅毒患者の報告数が急増しましたが、今年も同様に多くの患者が報告されています。（第40週まで：今年132名、昨年134名）

中でも、若年層の患者の報告が多く、特に10代・20代の女性患者の増加に注意が必要な状況です。

岡山県は全国的にも届出が多く、2018年7月から9月でみると、人口100万人あたりの届出が、東京都、大阪府に次ぎ全国3位（2018年4月から6月と同様）となっています。全国的にも患者は近年増加傾向を示しており、若年者を中心としたまん延が懸念されています。（第39週まで：今年5,081名、昨年：4,245名）

●男女とも早期顕症梅毒が多く、女性では無症候も多くみられます

病型に着目すると、男性では早期顕症Ⅰ期が多く、届出の半数程度を占めています。一方、女性では早期顕症Ⅱ期および無症候で全体の7割以上を占めています。いずれも感染性の高い時期です。



梅毒スピロヘータの電子顕微鏡写真
（国立感染症研究所 HP より）

●梅毒以外にも注意すべき性感染症はあります

性行為を通じ感染する感染症は梅毒以外にも、例えばHIV、クラミジア、ヘルペス、淋病など多くあります。これらの感染症を防ぐためにセーフセックスを意識するとともに、心当たりがある場合には医療機関の早期受診を心がけましょう。

「梅毒」とは

梅毒スピロヘータによっておこる、性感染症として重要な疾患です。早期には皮膚、粘膜に病変をきたしますが、進行により心血管系や、脳・脊髄の実質、髄膜などの神経系臓器など全身臓器に感染がおよび、大きな障害をもたらします（晩期顕症梅毒）。また妊婦の感染では胎児に様々な障害をきたします（先天梅毒）。

<病型>

早期顕症Ⅰ期：感染後3週間後から病原体侵入部位に硬結（しこり）を生じ次第に潰瘍化し、両そ径部のリンパ節が腫脹します。2～3週間で自然に消退します。

早期顕症Ⅱ期：Ⅰ期消退後3か月後で、バラしん（発しん）、膿胞、外陰部のコンジローマ（扁平腫瘤）、脱毛など3年程度様々な症状を繰り返しながら進行し、晩期梅毒に進んでいきます。

無症候期：Ⅰ期とⅡ期の間やⅡ期の発しん消退後など、梅毒血清反応が陽性ですが、臨床症状は認められない期間です。診断・治療の遅れにつながることがあります。

[日本の梅毒症例の動向について（国立感染症研究所）](#)

[ストップ！梅毒（日本性感染症学会）](#)

保健所別報告患者数 2018年 40週(定点把握)

(2018/10/01～2018/10/07)

2018年10月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	49	0.91	18	1.29	15	1.36	2	0.20	4	0.57	-	-	1	0.50	9	1.50
咽頭結膜熱	11	0.20	2	0.14	4	0.36	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	16	1.14	19	1.73	6	0.60	2	0.29	-	-	-	-	8	1.33
感染性胃腸炎	257	4.76	75	5.36	65	5.91	56	5.60	11	1.57	21	5.25	7	3.50	22	3.67
水痘	15	0.28	4	0.29	3	0.27	4	0.40	1	0.14	-	-	2	1.00	1	0.17
手足口病	38	0.70	5	0.36	26	2.36	1	0.10	4	0.57	2	0.50	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	0.09	2	0.14	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	14	0.26	8	0.57	2	0.18	2	0.20	-	-	1	0.25	-	-	1	0.17
ヘルパンギーナ	31	0.57	20	1.43	3	0.27	5	0.50	-	-	3	0.75	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	4	0.29	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	4	0.80	2	0.50	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	0.20	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2018年 40週(発生レベル設定疾患)

(2018/10/01～2018/10/07)

2018年10月11日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当														
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	11	0.20	2	0.14	4	0.36	-	-	-	-	1	0.25	-	-	4	0.67
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	0.94	16	1.14	19	1.73	6	0.60	2	0.29	-	-	-	-	8	1.33
感染性胃腸炎	257	4.76	75	5.36	65	5.91	56	5.60	11	1.57	21	5.25	7	3.50	22	3.67
水痘	15	0.28	4	0.29	3	0.27	4	0.40	1	0.14	-	-	2	1.00	1	0.17
手足口病	38	0.70	5	0.36	26	2.36	1	0.10	4	0.57	2	0.50	-	-	-	-
伝染性紅斑	5	0.09	2	0.14	1	0.09	1	0.10	1	0.14	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	31	0.57	20	1.43	3	0.27	5	0.50	-	-	3	0.75	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	6	0.11	4	0.29	1	0.09	-	-	-	-	-	-	1	0.50	-	-
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	0.67	4	0.80	2	0.50	2	2.00	-	-	-	-	-	-	-	-

今週、岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2、レベル3に該当するものではありませんでした。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2018年 第40週 2018/10/01～2018/10/07)

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～	
RSウイルス感染症	49	7	16	18	5	1	1	1	-	-	-	-	-	-	
咽頭結膜熱	11	-	1	1	3	2	1	1	-	-	-	-	-	2	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	51	-	-	-	2	7	4	7	5	4	6	6	8	2	
感染性胃腸炎	257	8	20	41	38	26	19	16	12	15	6	8	15	5	28
水痘	15	-	-	3	2	2	1	4	1	1	-	1	-	-	
手足口病	38	-	1	21	7	4	1	1	1	1	-	-	-	1	
伝染性紅斑	5	-	-	1	1	-	1	1	1	-	-	-	-	-	
突発性発疹	14	1	5	6	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
ヘルパンギーナ	31	-	2	11	10	2	2	-	-	1	1	-	1	1	
流行性耳下腺炎	6	-	-	-	-	1	-	-	-	2	1	1	1	-	

疾病名	合計	-6ヶ月-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	8	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	2	-	-	1	1

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

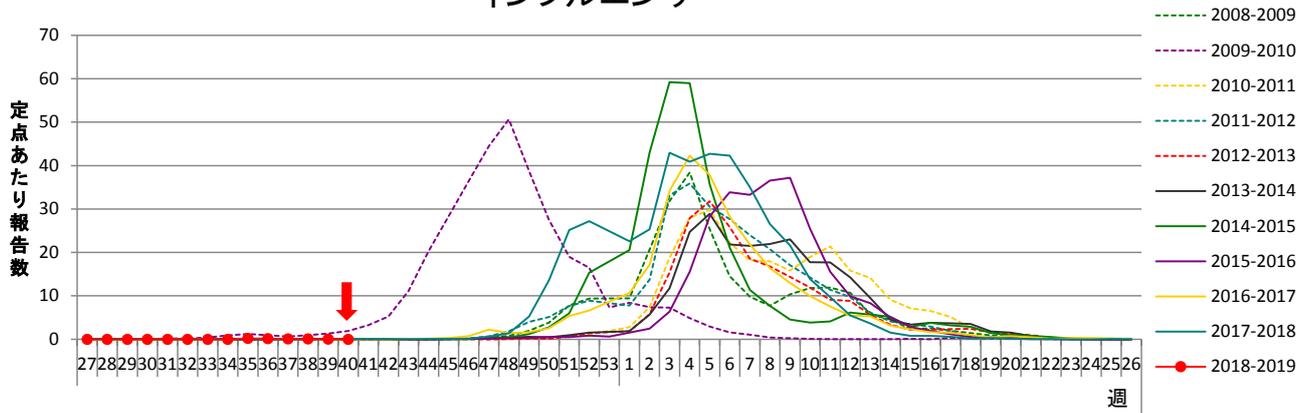
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

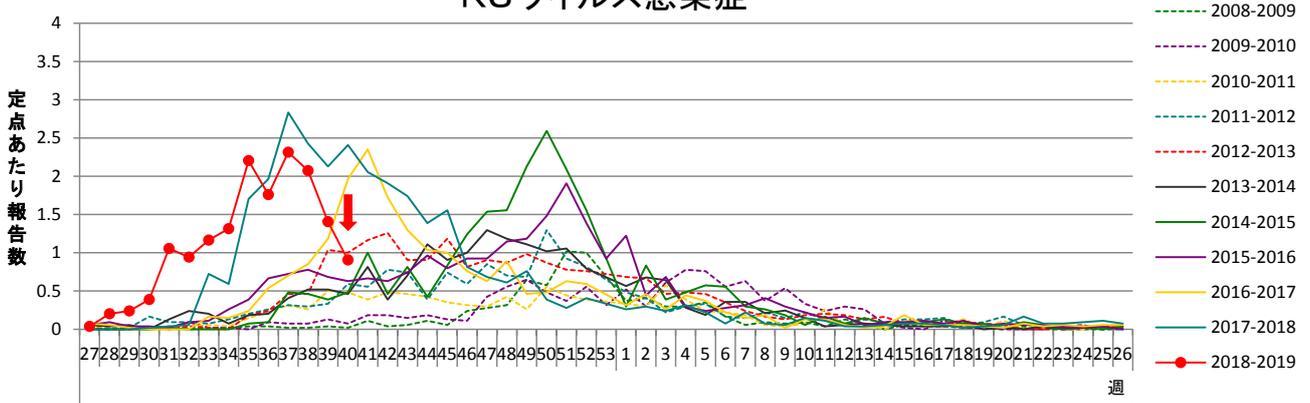
2018年 40週

分類	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	疾病名	2018		2017	
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年	
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-	
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-	
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	3	249	370	ジフテリア	-	-	-	
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	中東呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-	
	鳥インフルエンザ(H7N9)	-	-	-		-	-	-		-	-	-	
三類	コレラ	-	-	2	細菌性赤痢	-	-	3	腸管出血性大腸菌感染症	2	56	70	
	腸チフス	-	1	1	パラチフス	-	-	-		-	-	-	
四類	E型肝炎	-	1	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	5	5	
	エキノコックス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-	
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-	
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-	
	サル痘	-	-	-	ジカウイルス感染症	-	-	-	重症熱性血小板減少症候群	1	2	-	
	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-	ダニ媒介脳炎	-	-	-	
	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-	つつが虫病	-	2	1	
	デング熱	-	-	2	東部ウマ脳炎	-	-	-	鳥インフルエンザ	-	-	-	
	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-	日本紅斑熱	-	5	7	
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-	鼻疽	-	-	-	
	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	
	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	1	-	マラリア	-	-	-	
	野兔病	-	-	-	ライム病	-	-	-	リッサウイルス感染症	-	-	-	
	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-	レジオネラ症	2	60	30	
	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-		-	-	-	
	五類	アメーバ赤痢	-	15	22	ウイルス性肝炎	-	4	12	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染	-	16	17
		急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)	-	2	-	急性脳炎	-	5	8	クリプトスポリジウム症	-	-	-
クロイツフェルト・ヤコブ病		-	2	3	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	13	9	後天性免疫不全症候群	-	13	22	
ジアルジア症		1	1	-	侵襲性インフルエンザ菌感染症	-	1	1	侵襲性髄膜炎菌感染症	-	1	-	
侵襲性肺炎球菌感染症		-	35	36	水痘(入院例に限る。)	-	2	6	先天性風しん症候群	-	-	-	
梅毒		-	132	172	播種性クリプトコックス症	-	2	1	破傷風	-	2	-	
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症		-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	-	7	百日咳	2	136	-	
風しん		1	10	-	麻しん	-	-	-	薬剤耐性アシネトバクター感染症	-	-	-	

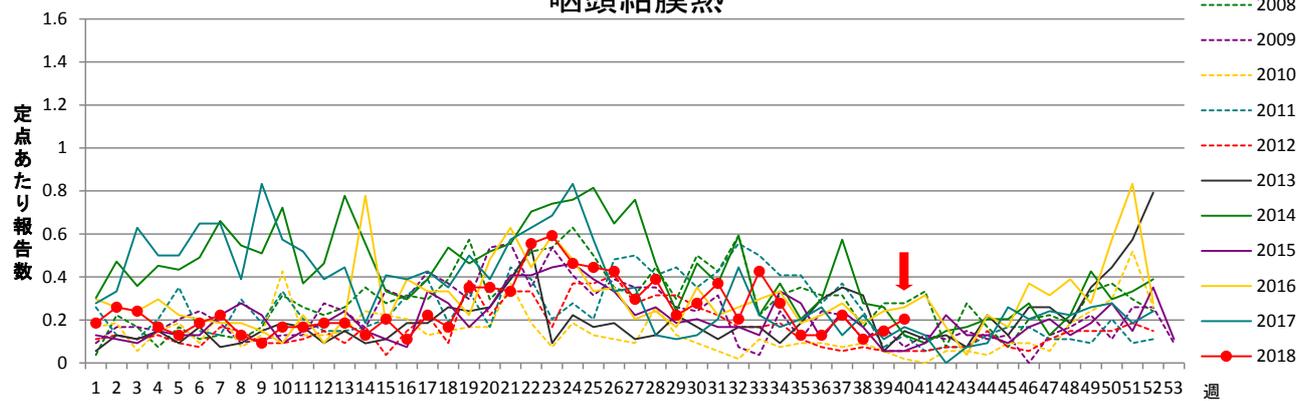
インフルエンザ



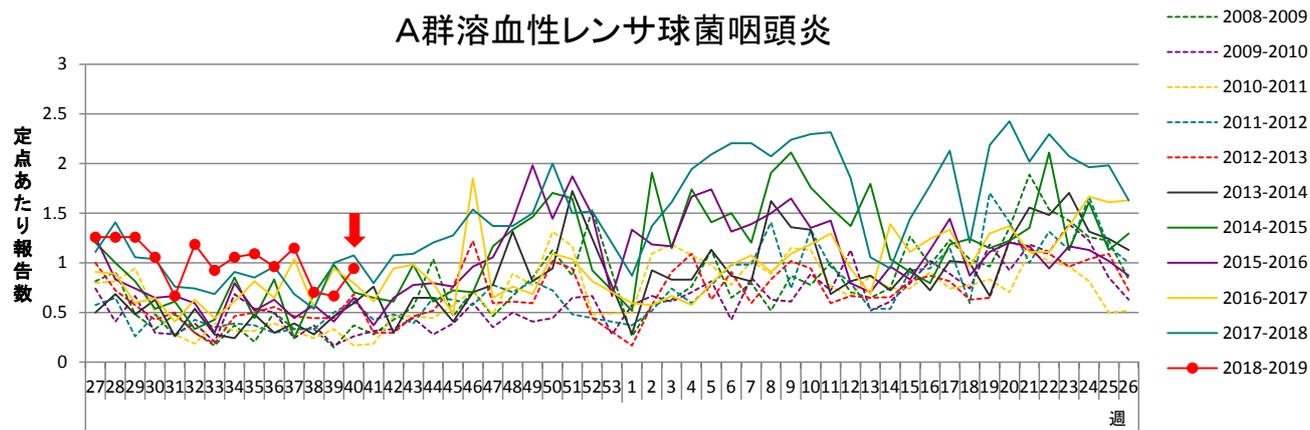
RSウイルス感染症



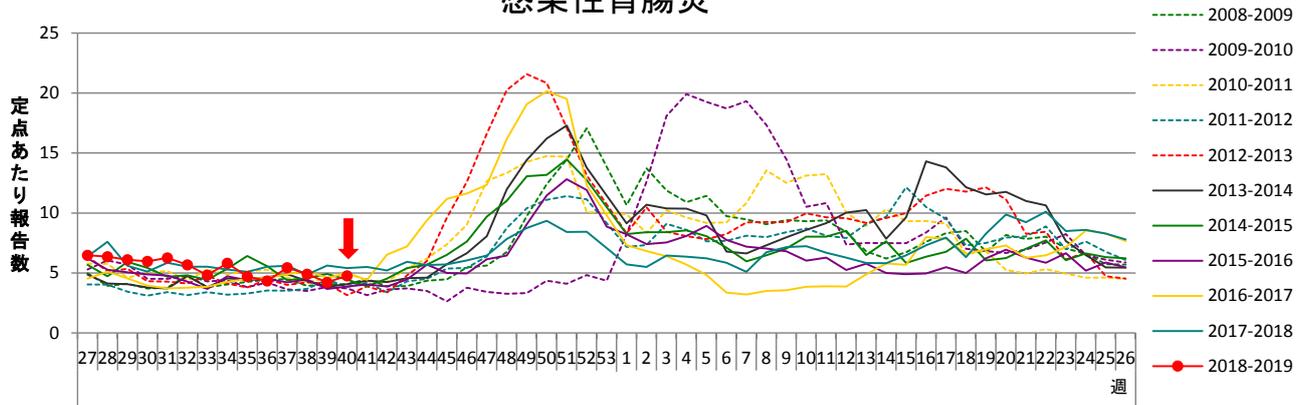
咽頭結膜熱



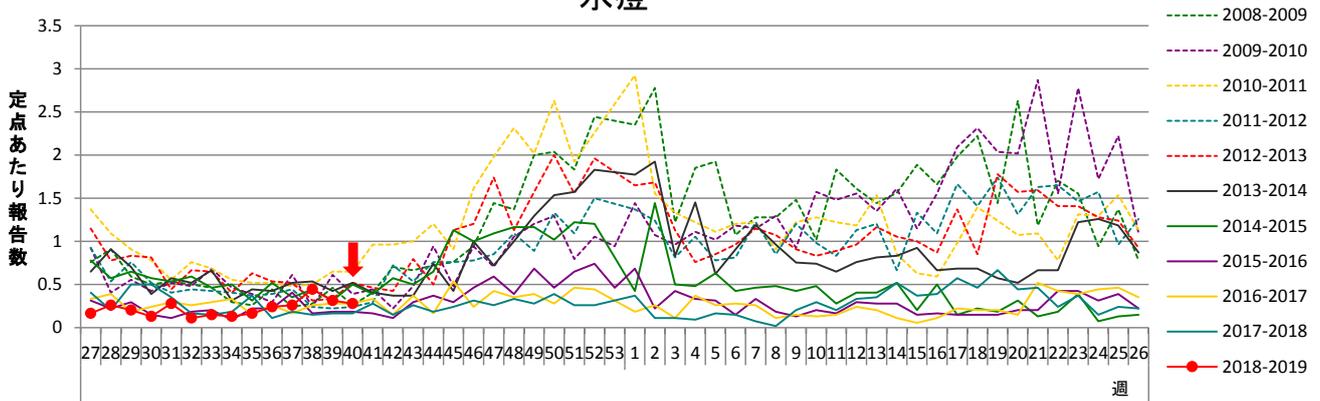
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



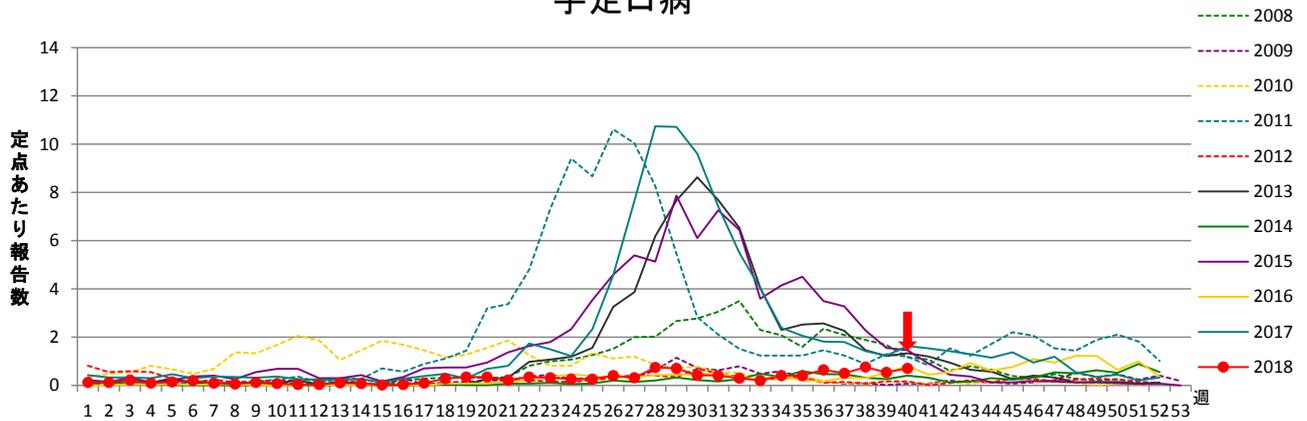
感染性胃腸炎



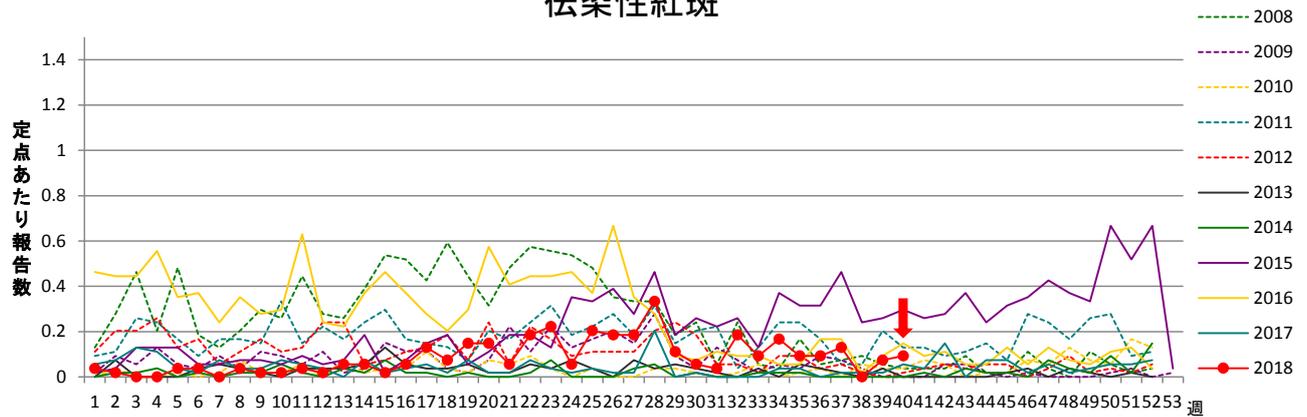
水痘



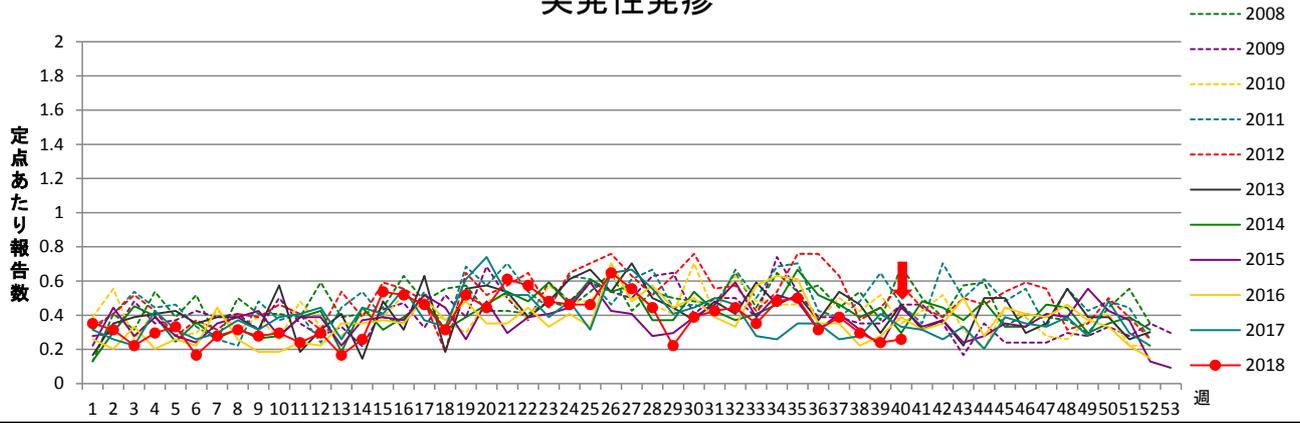
手足口病



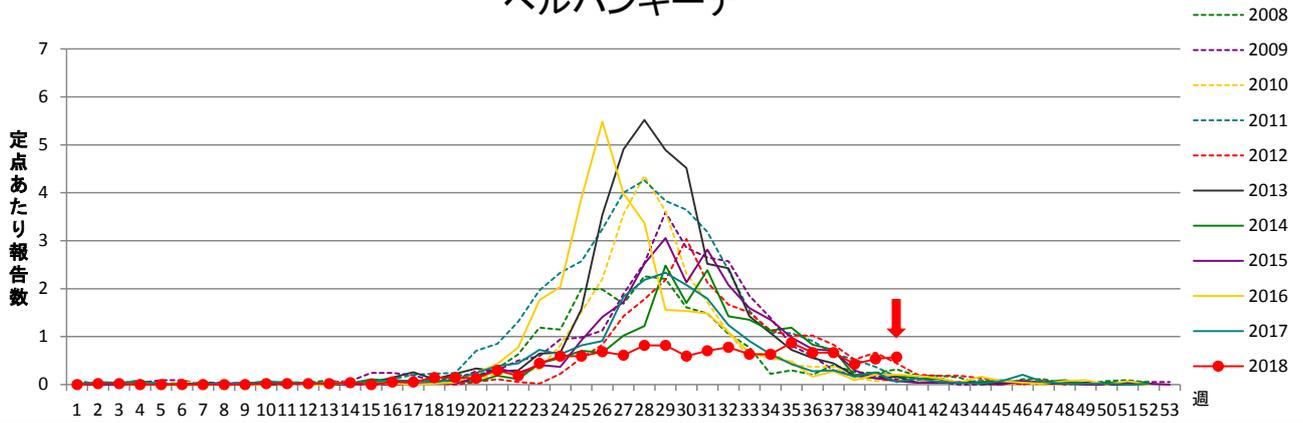
伝染性紅斑



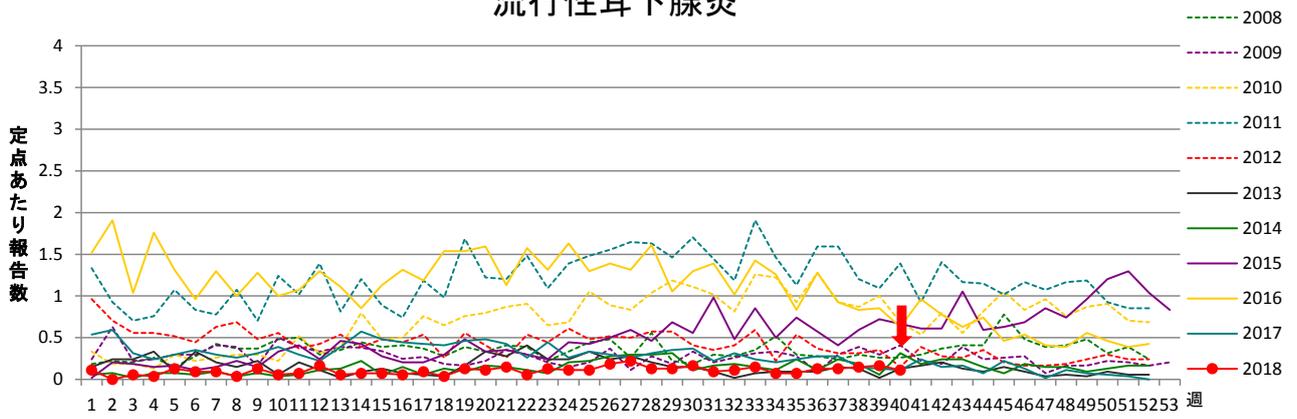
突発性発疹



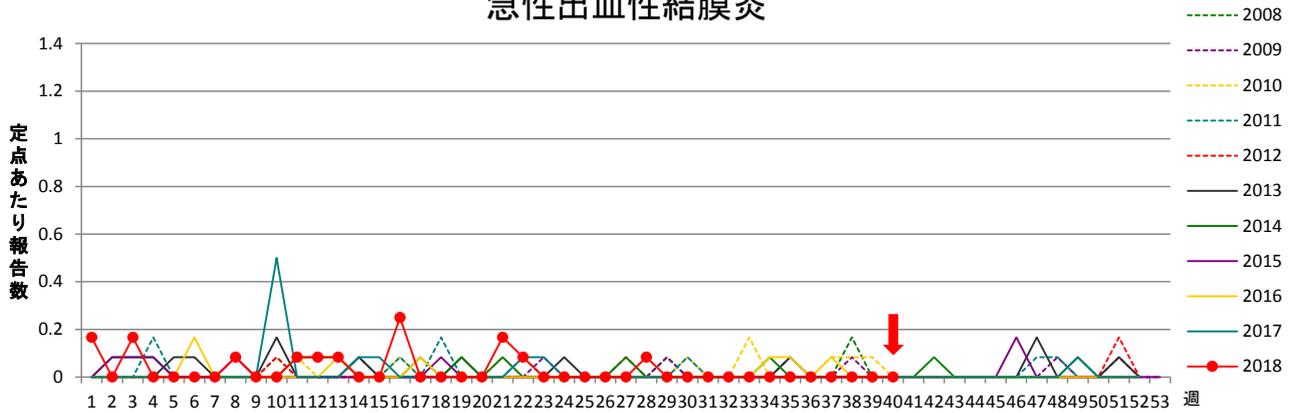
ヘルパンギーナ



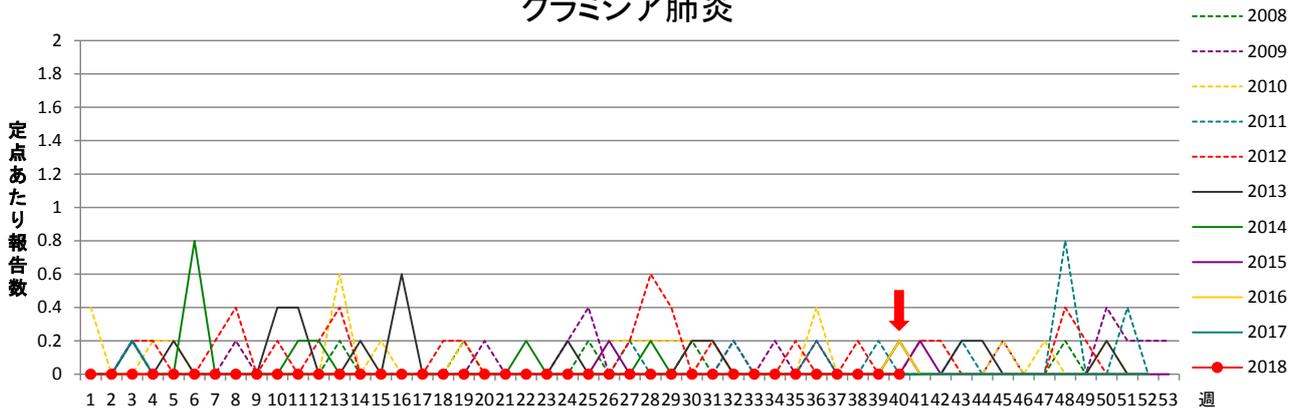
流行性耳下腺炎



急性出血性結膜炎



クラミジア肺炎



感染性胃腸炎(ロタウイルス)

